

第3回 電気システムセキュリティ特別技術委員会
議事録（案）

日 時 : 平成24年 7月30日（月）14時30分～16時30分

場 所 : 自動車会館 1階会議室

出席者 : 大西委員長, 栗原副委員長, 新藤委員 (A 部門長), 徳田委員 (A 部門代表), 大山委員 (B 部門長),
河村委員 (D 部門長), 庄子委員 (E 部門長), 野田委員 (E 部門代表), 桂幹事 (敬称略)

配付資料

- 資料3-1 第2回 電気システムセキュリティ特別技術委員会 議事録（案）
- 資料3-2 電気システムセキュリティ特別技術委員会での検討にあたって（メモ）
- 資料3-3 電気システムセキュリティ特別技術委員会 委員名簿
- 資料3-4 第3回 電気システムセキュリティ特別技術委員会 出席者リスト

議事概要

0 委員自己紹介

資料3-4に基づいて委員の自己紹介がなされた。

1 前回議事録の確認

平成24年5月16日に開催された前回委員会の議事録（案）について確認された。

2 活動内容の確認

2-1 電気システムセキュリティ特別技術委員会での検討にあたって

各部門より検討事項について報告がなされた。

・A 部門（新藤委員, 徳田委員）

中心となるのは電力システムを構築する部門（B 部門, C 部門）となる。スマートコミュニティにおいてセキュリティを阻害するような部分（電磁妨害, EMC 対策など）について検討を行うことは可能である。

現在のところ, A 部門単独では調査専門委員会の設立は考えていない。

・B 部門（大山委員）

想定外をより重点的に取り扱った方が良いのではないだろうか。既にB 部門内の技術委員会で議論を進めているものとの関連性はどうすべきか。

・（栗原副委員長）

供給側と需要側の両方を入れた方が良い。

・（大西委員長）

例えば省エネと非常用電源を統合して扱う横断的な委員会を作っても良いのではないかと。

・C 部門（安田前部門長, 小島委員, 松井委員から送付されたコメント）

1. 基本方針について

・電気システムの対象は極めて広く, ある程度分野を限定しないと具体的な調査を行なうことが難しい。

・特別技術委員会の活動の第一段階として, インフラとしての電力供給システムのセキュリティを中心に扱う特別調査専門委員会をB 部門が中心となって設置し, 残りの各部門が得意の分野から支援する形態が望ましい。

2. C部門として寄与・支援について

例えば、以下の分野について委員を選任し、特別調査専門委員会の活動を支援したい。

- ・通信システムのセキュリティ
- ・情報システムのセキュリティ
- ・システムのセキュリティ及びリスクマネジメント

・D部門（河村委員）

セキュリティ＝信頼性のみだと面白くない。部門横断の視点であれば面白い。

調査専門委員会での調査だけでなく、夢のある新しい提言を行うような委員会を設置できると良い。

・(大西委員長)

まずは一つでも部門が横断された委員会を設置したい。

・E部門（野田委員）

システム全体ではなく、センサ部分に関する検討は可能である。

2-2 検討事項

部門からの報告を受けて、今後の検討事項について議論が行われた。

・(大西委員長)

提言が行えるような横断委員会の設立を進める。B部門、D部門が必ず入るようにする。

省エネと非常用電源を扱うようなテーマはどうか。

・(栗原副委員長)

分散電源は良いテーマであろう。

・(大西委員長)

分散電源関連のセキュリティやオペレーションについては検討されていないのではないかと。

・E部門（野田委員）

本委員会の設置は無期限だが、アウトカムのスケジュールや方針を決めるべき。

・(大西委員長)

100年先の提言ができるとう良い。

・E部門（庄子委員）

現在存在しない未来システムが検討事項に上がって一つ調査専門委員会が立ち上がると、部門として具体的な検討が可能である。

・D部門（河村委員）

例えば国内の周波数統一化などの提言までできると良いのではないかと。

今後、各部門において部門横断型で取り扱うテーマについて議論してもらうこととした。

次回開催：第4回 委員会：平成24年11月13日（火）15：30～18：00を予定
電気学会 第1・第2会議室